ジョン・万次郎

(ジョン・まんじろう)

江戸時代末期から明治時代に至る時代は、日本が封建国家から近代国家へ移行する興味深い段階である。１８４０年頃の日本はまだ鎖国時代で、日本人が外国に出ることは許可されていず、外国との交際は一切禁止されていた。その頃四国のある村に、万次郎という若者がいた。彼は魚をとって暮らしていたが、ある日暴風雨のために、誰も住んでいない島に流されてしまった。島の近くを通る船も時にはあったが、どの船も彼に気がつかなかった。

半年くらいしたある日、万次郎はアメリカの船に救助された。船長は、万次郎は非常に頭が良いが日本で教育を受けたことがない、ということを知り、是非アメリカで教育を受けさせたいと思った。万次郎に相談したところ、万次郎も同意したので、一緒に連れて帰った。船長の家はマサチューセッツのフェア・ヘブンという町にあり、万次郎はそこで学校に入り、日本人として初めて西洋の進歩した教育を受けることになった。その頃のアメリカは、平等の思想が、十分には広まっていず、人間の間に差別があり、特に東洋人を低く見る傾向があったために、万次郎を野蛮な人間のように取り扱う人々やさも人間でないかのように無視する人々がいた。しかし、勤勉な万次郎は彼なりに一生懸命勉強し、優秀な成績をとった。彼は十年近くアメリカにいたが、船長夫婦の個人的な信頼を受ければ受けるほど、四国の田舎で一人で暮らしている母親のことを懐かしく思い出すようになり、ついに日本に帰る決意をした。

当時外国に出た者は幕府の厳しい調査を受けることになっていたので、万次郎も日本に戻った時、いろいろ調べられた。法律上十分な理由がない場合は死刑になるのが普通だったが、彼の場合は漂流という避けられない事情だったうえに、幕府のなかに西洋の文明・文化に関心を持ち、万次郎の話を聞きたがった人がいたので、彼は自由になった。

彼は、自分自身のアメリカでの経験からいって、日本の技術的水準が高くならない限り、この世界の複雑な競争において日本の発展はあり得ないと強く認識していたので、幕府の指導者や大名達に、開国して西洋の発達した文明・文化を輸入する必要性を説明せずにはいられなかった。彼の主張を無意味なことと見なした人もいたが、日本の将来にとって何と貴重な話だろうと感心して、万次郎に同調する進歩的な大名や知識人も少なくなかった。

万次郎は、一方においては、開国の重要性を説明し、日本の近代化に尽くしたが、他方においては、西洋の書物を何冊も日本語に翻訳して西洋の近代科学を普及させた。また、明治維新になってからは、東京大学で英語を教えながら、自分の経験を基にして、新しい日本の指導者となるべき若者達に、近代国家として日本が生き延びねばならぬということを熱心に語った。

に至る - indtil
封建国家 - feudalstat
段階 - fase, stadie
鎖国 - national isolation
許可 - tilladelse
されていず = されていないで
交際 - tæt relation
一切 - fuldstændig (med neg)
禁止 - forbudt
暴風雨 - storm
救助 - redde
是非 - absolut
平等 - lighed
思想 - idé
十分には - tilstrækkeligt
差別 - diskrimination
傾向 - tendens
野蛮な - barbarisk
取り扱う - behandle

さも - ekstremt
無視 - ignorere
勤勉な - flittig
彼なりに - på sin egen måde
優秀な - exceptionel
成績 - karakter
個人的な - individuel, personlig
信頼 - tillid
調査 - undersøgelse
法律(上) - (i henhold til) loven
死刑 - dødsstraf
漂流 - drive til søs
避ける - undgå
事情 - grund
文明 - civilisation
Xからいって - fra X's synspunkt, in terms of
技術的 - teknisk
水準 - niveau

限り - grænse; med neg: med mindre
複雑な - kompleks
競争 - konkurrence
あり得ない - umulig
認識 - anerkende
せずにはいられない = なくてはいけない
開国 - åbne andet op
主張 - overbevisning
無意味 - nonsens
見なす - betragte som
同調 - være enig
知識人 - dannede mennesker
一方においては / 他方においては - på den ene /anden side
尽す - gøre ngt indgående
普及 - brede sig
生き延びる - live længe

http://language.tiu.ac.jp/materials/jpn/yomu/yomu07.html

江戸時代末期から明治時代に至る時代は、日本が封建 国家から近代国家へ移行する興味深い段階 である。１８４０年 頃 の日本はまだ鎖国時代で、日本人が外国 に出ることは許可されていず、外国 との交際 は一切 禁止されていた。その頃 四国のある村 に、万次郎という若者 がいた。彼 は魚　をとって暮らしていたが、ある日暴風雨のために、誰 も住んでいない島 に流されてしまった。島 の近くを通る船 も時にはあったが、どの船 も彼 に気がつかなかった。

半年 くらいしたある日、万次郎はアメリカの船 に救助　された。船長　は、万次郎は非常 に頭　が良いが日本で教育　を受けたことがない、ということを知り、是非アメリカで教育　を受けさせたいと思った。万次郎に相談 したところ、万次郎も同意したので、一緒 に連れて帰った。船長　の家 はマサチューセッツのフェア・ヘブンという町 にあり、万次郎はそこで学校 に入り、日本人として初めて西洋 の進歩した教育　を受けることになった。その頃 のアメリカは、平等　の思想が、十分　には広まっていず、人間 の間　に差別があり、特に東洋 人 を低く見る傾向 があったために、万次郎を野蛮な人間 のように取り扱う人々 やさも人間 でないかのように無視する人々 がいた。しかし、勤勉な万次郎は彼 なりに一生懸命　勉強　し、優秀　な成績 をとった。彼 は十　年 近くアメリカにいたが、船長　夫婦の個人的 な信頼 を受ければ受けるほど、四国の田舎で一 人 で暮らしている母親 のことを懐かしく思い出すようになり、ついに日本に帰る決意をした。

当時外国に出た者は幕府の厳しい調査を受けることになっていたので、万次郎も日本に戻った時、いろいろ調べられた。法律上十分な理由がない場合は死刑になるのが普通だったが、彼の場合は漂流という避けられない事情だったうえに、幕府のなかに西洋の文明・文化に関心を持ち、万次郎の話を聞きたがった人がいたので、彼は自由になった。

彼は、自分自身のアメリカでの経験からいって、日本の技術的水準が高くならない限り、この世界の複雑な競争において日本の発展はあり得ないと強く認識していたので、幕府の指導者や大名達に、開国して西洋の発達した文明・文化を輸入する必要性を説明せずにはいられなかった。彼の主張を無意味なことと見なした人もいたが、日本の将来にとって何と貴重な話だろうと感心して、万次郎に同調する進歩的な大名や知識人も少なくなかった。

万次郎は、一方においては、開国の重要性を説明し、日本の近代化に尽くしたが、他方においては、西洋の書物を何冊も日本語に翻訳して西洋の近代科学を普及させた。また、明治維新になってからは、東京大学で英語を教えながら、自分の経験を基にして、新しい日本の指導者となるべき若者達に、近代国家として日本が生き延びねばならぬということを熱心に語った。